

【京都北部ブロック】

1. ブロック司牧者チーム	
①司牧者チームの協力と分担	ブロック司牧者チーム(司祭団と修道者)の協力と分担は機能していますか、課題は何ですか。
	☞司牧者チームは4人の司祭と2人のシスターで、月1回第2月曜日に集いをもち、情報交換を行っている。分担については、丹後教会では、シスターたちが、教会に来ることのできない高齢者や教会から離れて久しい人々とのコミュニケーションを行っている。司祭の間では、明確な役割分担はしていない。主日には司祭が4つの小教区をミサ巡回しており、主日に評議会がある小教区は、主日ミサを行った司祭が出席することになっているが、それでもって各小教区の十分な情報が司祭たちの間で十分に共有されているわけではない。
②司祭団と役員との連携体制	ブロック司牧者チームと、評議会役員の連携は機能していますか。課題は何ですか。
	☞各司祭は、自分の生活拠点になっている小教区の評議会役員とは一定のコミュニケーションと連携はあるだろうが、生活拠点でない小教区とは疎遠気味だと思う。この事実は、できるだけクリアしなければならない課題だ。自分が生活拠点としている小教区と親和的であるのは良いことだと思うが、そうでない小教区評議会役員とのコミュニケーションと連携をより密にすることをどのようにするか。
③宣教司牧観の共有	それぞれの賜物の違いや教会・宣教に対する考えを受け入れ、活かしていますか。課題は何ですか。
	☞共同宣教司牧については、永年学び実践してきたので、一定の共通理解はあると思う。一方で司牧者の間には微妙な違いはあると思う。その違いはむしろ豊かさであると思う。違いを受け入れることが大事だと思う。申し訳ないですが「それぞれの賜物の違い」まで考えが及んでおりませんでした。それぞれの小教区、各部会、個人など、さまざまなレベルでの違い、特徴、固有の良さなど日々感じないわけではありませんが、それらを「賜物」と言挙げするほどには意識してはおりませんでした。

【洛北ブロック】

1. ブロック司牧者チーム	
①司牧者チームの協力と分担	ブロック司牧者チーム(司祭団と修道者)の協力と分担は機能していますか、課題は何ですか。
	☞5つの教会、2つの巡回教会があるが、1つの教会は修道会の教会なので少し状況が異なる。その教会は修道会の司祭が主任司祭のタイトルを保持した規約のため、その修道会の司祭が主にかかわっている。担当司祭は4人、教区からの任命ではないが3人のシスターが司牧者チームとして協力してくれている。月に1回集まり、ブロックのことを話し合い、必ず一緒に食事をし、信頼関係、関わりを深めることを大切にしている。役割分担はミサや評議会などにおいて基本的にできている。心がけていることは、評議会やミサはできるだけ共同司式するなど、一緒に協力してできることは一緒にすること。しかしそのために時間の調整が難しくなったり、忙しくなってしまう、信徒との時間をきちんととることができないことが課題。
②司祭団と役員との連携体制	ブロック司牧者チームと、評議会役員の連携は機能していますか。課題は何ですか。
	☞2つの大きな教会については評議会の前に役員会を開き、担当司祭と役員で主に評議会の議題やいま小教区で問題になっていることを話し合ったり、意見の交流をして、評議会の方向性を決める試みをしている。他の2つの教会はそれほど大きな規模ではないので、評議会ですべて意思決定をしていく形で十分機能している。役員会の時間の調整も難しい。働いている人や夜は難しい人などもあるので、評議会が日曜日になると時間調整が難しい。2つの教会は平日の夜や、主日のミサのあと少しの時間で行うなど工夫しているが、時間の調整が課題の一つだと思う。
③宣教司牧観の共有	それぞれの賜物の違いや教会・宣教に対する考えを受け入れ、活かしていますか。課題は何ですか。
	☞それぞれの意見の違いや考え方の違いは当然のこととしてあるので、それによってお互いがぎくしゃくしないように、できるだけかかわりを密にするようにして、お互いに分かち合いの機会や話す機会をできるだけ設け、お互いの関係性を築くことを心掛けている。それは司牧者チームも、役員の中でも、評議会の中でも信徒間でも同じことである。それにより、お互いが違うということだけでれかを排除したり、そのような雰囲気が作られないように、教会に行って気持ちが良かったと思えるようにすることが基本だと思っている。教会や福音宣教の考え方に微妙なずれがあり、教会としての考え方がるので、ある程度意思疎通してお互いに同じような考えを持つということは非常に大切だと思う。それぞれが自分の考えを主張するだけではなくにも進まないし、かえってお互いに足をひっぱり合ったりすることにもなるので、根気強く話し合ったり分かち合いをしたりすることでお互いの考え方の地ならしをして、基本的な土台を作るということを大切にしていきたいと思っている。

【洛東ブロック】

1. ブロック司牧者チーム

①司牧者チームの協力と分担

ブロック司牧者チーム(司祭団と修道者)の協力と分担は機能していますか、課題は何ですか。

☞河原町、山科、伏見、桃山という4つの教会だが、河原町は司教座聖堂で大きい。司牧者チームは司祭3人(菅原師、モンロイ師、一場師)だが、去年まではキム師、モンロイ師、一場師の3人だったので国際的な雰囲気があり、それを維持してやっている。主に担当する司牧分野を決めている。モンロイ師は病者高齢者、菅原師は教育関係(教会学校・青少年など)、一場師はその他ということで、バランスをとっている。3人が4つの教会で移動しながら司牧している。洛東は教会の移動がしやすいので、特に自分の司牧分野について偏りなくかかわっていくことにしている。しかし自分の分野以外も知らないということではなく、司牧者会議を毎週火曜日にして情報交換し、司牧者チームの方向性を決めるようにしている。河原町に住んでいる司祭もいれば、それぞれの教会に一泊ずつする司祭もいるが、基本は河原町の司祭館と考えている。

②司祭団と役員との連携体制

ブロック司牧者チームと、評議会役員との連携は機能していますか、課題は何ですか。

☞4つの教会すべてに役員会と評議会をおり、役員会は評議会の準備のための会合である。役員会と評議会に出席する司祭が違うことがあるが、もしも役員会と評議会が司祭が違う意見を言ったら評議会での司祭の発言が司祭団の発言とすることに決めている。評議会が日曜日にあり、ミサがいくつかあったりもするので評議会に出るのが途中からになることもある。また以前評議会に来ると思っていた司祭が来ていないなど連絡ミスがあったこともあるが、改善するようにしている。

③宣教司牧観の共有

それぞれの賜物の違いや教会・宣教に対する考えを受け入れ、活かしていますか、課題は何ですか。

☞司牧分野は、それぞれの興味のある分野や力を入れた分野で分けている。それぞれの宣教観や大切にしている賜物が司牧に生きるようにしている。葬式や結婚式は順番に担当している。偏りがなく、同じように大切にされていると信徒が思えるようにかかわるようにしている。洛東ブロックの長期計画はモンロイ師とキム師と一場師の3人で作成した。3人の宣教観や大切にしているものを生かしながら作り、いまも続いている。3人ができるだけバランスよく、しかし押しつけにならないよう、1人1人が生きるように、1人1人が喜びをもって宣教できるようにしている。

【京丹ブロック】

1. ブロック司牧者チーム

①司牧者チームの協力と分担

ブロック司牧者チーム(司祭団と修道者)の協力と分担は機能していますか、課題は何ですか。

☞4月からチェ師がモデラールに、カマチョ師が京丹ブロックに任命され、2人の司祭で5つの小教区を担当している。主日のミサは2人では足りないので村上師に協力していただいている。現在の体制になって5か月ほどだったが、たがいに協力し合って基本的にすべて相談している。相互理解の上、協力と分担はよくできていると思う。月1回打ち合わせの場をもち、情報交換やミサのスケジュールも決めている。第5週がある場合はブロックのミサがあり、順番に5つの小教区をまわって行っている。ミサ後はブロックの典礼部と教育部の部会があるので、主にカマチョ師が典礼部、チェ師が教育部を担当している。しかし全てをまかせるのではなく、会議にはそれぞれが出席するが、なにかする場合には一緒にするようにしている。以前は2つ・3つと担当の教会を分けて評議会に参加する形だったが、いまはミサの担当になった方が評議会に出る形なので2人で5つの小教区を担当し、2人でなんでも一緒にする形で行っている。信徒としては、どちらの司祭に相談したらいいか迷うことがあるようだが、どちらかの司祭に相談して決めたことであればいいということにしている。

②司祭団と役員との連携体制

ブロック司牧者チームと、評議会役員との連携は機能していますか、課題は何ですか。

☞評議会、ブロック会議、ミサ、どれもできるだけ5つの小教区を同じように回れるように組んでいるので、ミサの前後に相談するようにしている。役員会は申し訳ないが役員に任せている。役員会では信徒同士で自由に意見が出るのが良いと思うので、それを評議会に司祭と一緒に決めていく形で進めている。以前からの課題だが、ミサが9時と11時なので、9時のミサ後に評議会をやる教会は司祭が評議会に出席できないことを改善したい。

③宣教司牧観の共有

それぞれの賜物の違いや教会・宣教に対する考えを受け入れ、活かしていますか、課題は何ですか。

☞担当司祭が韓国人とメキシコ人だが、韓国語・スペイン語では話さず、日本語共通で話すようにしている。それぞれ違う賜物があるので、その賜物を皆さんのために使っていく。自分の信仰は皆に分かち合うことが大切であり、交わりの共同体が大切だと考えるので、いつも分かち合う必要がある。分かち合いはいつも2人で、そして信徒とするようにしている。小教区司牧のためにできるだけお互いに話し合い、ときどき電話でなにかあるか確認し、わからないことはいつも相談して決める。大切なことは、できるだけ信徒と一緒にミサのあとお茶を飲むなどして一緒に過ごす時間をもつことである。いただいた司祭職を自分たちのためだけでなく皆のために使う。

【山城ブロック】

1. ブロック司牧者チーム

①司牧者チームの協力と分担

ブロック司牧者チーム(司祭団と修道者)の協力と分担は機能していますか、課題は何ですか。

☞ 5つの小教区、1つの施設、3つの幼稚園があり、それぞれが特色をもっており、それぞれが宣教共同体の主体だととらえている。

全体は鶴山師が見て、教会別に担当を分けているので担当司祭がそれぞれの評議会に行く。しかしローテーションがあるので、行ったときにはその全体の責任をとるようにしている。京都南部地区には小教区の10か年計画というのがあり、山城では各小教区の個性を生かす活動を通して、10年をどうしていくかを考えている。先輩信者がたくさんいる教会、子育て層・子供が多い教会など、それぞれの教会に個性があり、数年前からは外国籍や定住している外国人、土地柄留学生の外国人も多くいる。そういう方々とも一緒にやっていく共同体、信徒ではない幼稚園の子供たち・保護者もいるので、そういう人たちも生かすということをしていかなければいけないと思う。

司祭同士の役割分担はされている。外国籍の人たちはシスターにお願いをしている場面も多く、シスターも重要な働きをしている。特に信徒養成など司祭2人では足りない部分があり、任命は受けていないがその分野に造詣の深いシスターにお願いをしている。宣教の主体というのはもちろん司祭、修道者、信徒であるが、主に信徒たちを援助していく。

②司祭団と役員との連携体制

ブロック司牧者チームと、評議会役員との連携は機能していますか。課題は何ですか。

☞ 司牧者チームというのは狭い意味ではシスター2人と司祭2人だが、広い意味では役員や担当部会の人も入れて考えるのがいいのではないかと思う。5教会の役員とまめに連絡をとり、地区集会を開き、その中で教会共同体を運営していくべきであって、司祭団だけでものを話し合うというのではないと思う。本当ならばチームに信徒をたくさん入れたうえで進めていく形が一番いいのではないかと思う。

③宣教司牧観の共有

それぞれの賜物の違いや教会・宣教に対する考えを受け入れ、活かしていますか。課題は何ですか。

☞ 司祭同士の連絡はこまめにメールでしており、互いに気遣い、助け合いかかわりができている。一緒にやらせていただいて、一切消耗することはなく、彼に生かされていると感じるし、役員や担当を引き受けてくれている信徒たちからも生かされている、影響を受けているというのがいまの司祭団の現状ではないかと思う。司祭団やシスター2人が引く張っていくような共同宣教司牧は終わっていて、彼らからも学んでいかなければいけないということを司祭やシスターとも、チームでいつも分かち合っている。そのような共同司牧に移行していると思う。

【奈良ブロック】

1. ブロック司牧者チーム

①司牧者チームの協力と分担

ブロック司牧者チーム(司祭団と修道者)の協力と分担は機能していますか、課題は何ですか。

☞ 8つの教会があり、担当司祭が3名、修道者が3名、日本語研修中でミサの手伝いの司祭が1名いるので司祭としては4名。主日のミサは2つずつ担当し、さらに英語ミサと、奈良教会の前晩ミサと早朝ミサがあるので分担して行っている。

奈良は長年南と北のブロックに分かれており、特に南のブロックは、西大和教会と御所教会には司祭は一時的にしか住んでおらず合同であることが多かった。それに対して北の4教会は長年主任司祭がいたので1つ1つ独立性が高いという特徴があり、できるだけ一緒にするにはしているが、やはり平日のミサも南と北で担当を分けている。そのような経緯から北と南の、同じブロック内での地域での交流や2か月に1回ブロック会議を行い、そこでの交流もあるが、逆に南の教会からは以前は4つの教会でまとまっていたが奈良ブロックになって逆に交流が少なくなったという声も聞かれるので、そのような部分をどういった形でフォローしていくかも課題だと思う。

②司祭団と役員との連携体制

ブロック司牧者チームと、評議会役員との連携は機能していますか。課題は何ですか。

☞ 各教会の役員会はモデラートルが出席、教会によっては複数の修道者や司祭が出席する。主日は早い時間のミサと遅い時間のミサがあり、早い時間のミサのあとに行う評議会は司祭が出ることができないので修道者の担当者に出てもらおうという形をとっている。司祭との交流の時間が少ないというのはアンケートにもいくつか出ているが、そういった限界はある。

③宣教司牧観の共有

それぞれの賜物の違いや教会・宣教に対する考えを受け入れ、活かしていますか。課題は何ですか。

☞ 司祭同士、修道者同士は月に1回集まってコミュニケーションとっており、問題なく、価値観の共有もできていると思う。信徒にとっては、典礼のやり方が司祭によって多少違うというのがあるが、統一すべきことは統一しながら、その場で合わせてもらえればと思う。司牧の指導については司牧者チームで共有されていると思うので問題はないと思っている。その他お葬儀についてはその時にできる人がやるということにしている。平日のミサも基本的に北と南で分けているが、所用でミサができないときは北南関係なく助け合っている。

【滋賀ブロック】

1. ブロック司牧者チーム

①司牧者チームの協力と分担

ブロック司牧者チーム(司祭団と修道者)の協力と分担は機能していますか、課題は何ですか。

☞滋賀ブロックでは、4月に今年一年をかけてブロックの課題を考えていくことを決め、そのための現状把握を現在行っている。その中で5つのポイントが浮き上がってきた。

1つ目はブロック共同宣教司牧の理想像がまだ把握できていないこと。ブロックの統合が最近行われたため、どのような滋賀ブロックにしていくがまだ見えていない。2つ目は司牧者会議の方向性が定まっていないこと。ブロック司牧者チームには3人の司祭、2人の修道者がいるが、それぞれ司牧者会議に対する思い入れが違うので、それの一つにしていく必要がある。3つ目は共同宣教司牧における距離の問題。最大80キロメートル離れており、どのように心と実際の距離を埋めていくか。また6つの小教区に4つの言語共同体があり、これをどうやって一つにするかが課題である。4つ目は司牧者間のコミュニケーションだがこれは非常に良好である。5つ目はブロック活動について、ブロックでは3つの合同行事を行っているが、行事を中心にしてまとまっていくのが今のカタチ。長い間、湖東と湖西に分かれていたのでそれぞれでまとまっている。それを活かしつつ、一つになっていく必要がある。3つの行事は会場となる小教区が中心になっているので、それを全体で出来るようにならないかというのが課題。

②司祭団と役員との連携体制

ブロック司牧者チームと、評議会役員との連携は機能していますか。課題は何ですか。

☞

③宣教司牧観の共有

それぞれの賜物の違いや教会・宣教に対する考えを受け入れ、活かしていますか。課題は何ですか。

☞

【三重北部ブロック】

1. ブロック司牧者チーム

①司牧者チームの協力と分担

ブロック司牧者チーム(司祭団と修道者)の協力と分担は機能していますか、課題は何ですか。

☞共同回心式(年2回)は協力し合っている。4人の神父体制であるが、チームとして今は動いていない。

②司祭団と役員との連携体制

ブロック司牧者チームと、評議会役員との連携は機能していますか。課題は何ですか。

☞ブロック会議を定期的に開催し、司牧者チーム全員と各小教区役員が参加し、相談している。

③宣教司牧観の共有

それぞれの賜物の違いや教会・宣教に対する考えを受け入れ、活かしていますか。課題は何ですか。

☞各小教区の司祭の考え方が色々違い、お互いの考えを尊重している。

【三重南部ブロック】

1. ブロック司牧者チーム

①司牧者チームの協力と分担

ブロック司牧者チーム(司祭団と修道者)の協力と分担は機能していますか、課題は何ですか。

☞範囲が広いので、2つずつの小教区を担当し司牧している。松阪教会の範囲に入るが、建物はないが尾鷲・紀伊長島の共同体もある。協力として、定期的な会議をするように努力している。この春に担当者が変わったので、それを機に2か月に1回は会議をするように方向性を決めた。

今後の課題としては、6つの小教区がそろってなにかをすることはむずかしいが、子供たちのキャンプは6つの小教区が協力してやっていけるように考えている。

②司祭団と役員との連携体制

ブロック司牧者チームと、評議会役員との連携は機能していますか。課題は何ですか。

☞連絡がいつもとれるように配慮している。評議会には、2つずつの担当の小教区にそれぞれの担当の司祭が参加して話し合いをもっている。

③宣教司牧観の共有

それぞれの賜物の違いや教会・宣教に対する考えを受け入れ、活かしていますか。課題は何ですか。

☞共有はおそらくできていないだろうと思う。去年までは高齢の司祭との3人で意思疎通するのに苦労した。3人の担当司祭に2人の修道者の協力司祭にお手伝いいただいている。7、8月に2人の担当司祭が休みをとることが恒例になっており、そのときは2人の協力司祭が積極的に動いてくれて大変ありがたい。課題としては非常に広い範囲を見たり、チームのメンバーがどのくらい機動力をもって動けるかという条件がうまく整わないと、協力してやっていくということや共同宣教司牧を実現するのは困難だと感じている。